



2018年キング・コング・ブルース 2018 A.D. or The King Kong Blues(1975)サム・J・ルンドヴァル(江一弘訳)サンリオ(文庫)(8/5刊・¥280)

スウェーデン作家の、ベストセラー長篇である。もちろん、純粋なスウェーデンSFが翻訳されるのは、これが初めてになる(『復讐鬼コナン』という、スウェーデンのアマチュア作家と、デイ・キャンブとの合作もあるが、数には入らないだろう)。

二〇一八年、化粧品メーカーのキャンペーンガールに選ばれた女を捜し出す、主人公の物語。巨大なコングロマリットに支配された世界——それも、実は、アラブの小国の管理を受けていた。

風刺小説の体裁で書かれたもの。作家、編集者、音楽家と、マルチに職業をこなす、ルンドヴァルの作品だ。公害、スラム、そしてマスコミに侵されたスウェーデンの社会。その原因は、さまざまなデータを交え、随所で述べられている。けれども、未来社会を描写したにしては、少し量的に不足しているし、風刺の目新しさも、さほどではない。高度の福祉国家スウェーデンの生んだ、風刺の対象が、我々の視点と不思議に一致するのは、ちょっと意外でもある。なお、本書は、著者自身が英訳した、アメリカのDAWブックス版からの重訳である。